



実践的防災訓練事例集



高津支援学校
暗闇歩行訓練
の様子



小田原東高校
ARゴーグル
を用いた火災
煙訓練の様子

座間高校

煙発生器を用いた
火災を想定した避
難訓練の様子

右下：生徒が作成
した事前学習用の
防災動画教材



神奈川県教育局指導部
保健体育課保健安全グループ

目次

I 地域と連携した実践的防災訓練（A R機材の活用を含む）

(1) 座間高等学校	1
(2) 小田原東高等学校	4

II 宿泊訓練

(1) あおば支援学校	7
(2) みどり支援学校	9
(3) 相模原中央支援学校	12
(4) 高津支援学校	14
(5) 岩戸支援学校	16
(6) 有馬高等学校	18
(7) 津久井支援学校	21

座間高等学校 (生徒主体 ・ 地域連携)

名 称	実践的防災訓練
日 時	令和6年12月24日（火）8時50分～令和6年12月24日（火）15時30分
実施場所	体験場所等：本校グラウンド、本校会議室
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・シミュレーション（クロスロード）による、知識に基づく正しい判断力を身に付ける。 ・実動訓練による行動の機会付与と行動変容を確認する。 ・自助・共助を意識して臨機応変に対応する。 ・AR（拡張現実）を用いて、実際に洪水や河川の氾濫、火事が起きた際にどのように行動すればいいのかを学ぶ。 ・実際に発災した時のことを想定し、3分・3時間・3日間に分けて「しなければならないこと」を考える。
主 催	学校主催（大地震等の災害時を想定）
参加人数	参加生徒 852 名 ・ 教員 50 名
事前準備	防災委員による防災訓練の企画、準備 訓練参加者、関係者との調整
実施内容	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><生徒作成の防災動画①> (シェイクアウトの注意事項)</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p><生徒作成の防災動画②> (火災発生時の煙への対処)</p>  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <p><血のりを使った怪我人の想定></p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p><煙発生器></p>  </div> </div>

<防災学習>
(自助・共助について知る)



<火災想定での避難訓練>
(煙発生器の使用)



<グラウンドへ避難>



<AR ゴーグルで災害の疑似体験>



<発災時に生き延びるためのワークショップ>

(ワークショップ中に
シェイクアウト訓練)



(考えをまとめて発表)



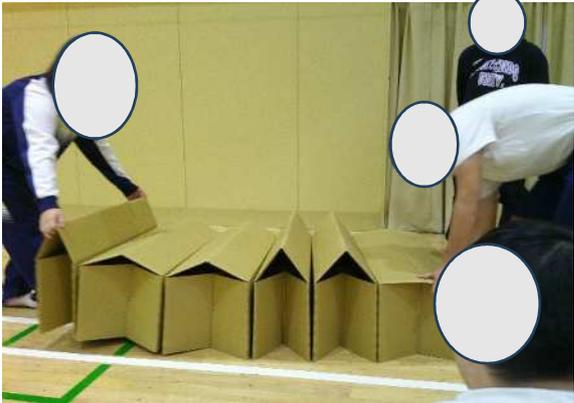
<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○協力して避難する姿勢がすばらしかったと思います。負傷者に対しても適切な対応で避難できていたと思います。 ○前の人について行ったけど本当にその人が正しいのかあまり疑わなかったの で次は友達と情報を確認めながら避難しようと思った。 ○全体的に周りに合わせて行動するような主体性も自主性もない行動ばかりに なってしまったので、自分の頭を使って行動したい。 ○先生の誤指示にも惑わされずに避難できていてよかったです。 ○先生の言葉を信じ、すぐ避難するのではなく、一旦席についてしまったのが反省。 ○クラスにいる怪我人の対応をできた ○友人を助けたり、そのために健康体の別の友人と協力できたのが良かった、ま た外で並ぶときは自ら声かけこそできたが声かけするまでに無駄な時間を作 ってしまったので実際の災害の時には極力無駄をなくしていきたい。 ○人が多く避難経路がすごく混むのが大変だと思った。 ○少し人に流されてしまう部分はやっぱりあったので改善したいです。
<p>工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○防災委員会の生徒による訓練及び事前教育の企画・設計・運営 ○行動変容を目指した教育プログラム ○災害の疑似体験 ○地域と連携した防災講話の実施
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主体的に訓練の企画・運営・振り返りを行うことで、防災対策、防災教育を自分事としてとらえることができた。 ○ゼロから防災訓練を生徒が企画したことによる達成感を感じる事ができた。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1年に1回全学年を巻き込んで行う防災訓練をどれだけ毎年変化させて持続可能にできるかが課題。 ○本番にできるだけ近い形で訓練を行いたいが、同時に怪我人が出ないように工夫しなければいけない点はよく検討したい。(窓を使った脱出など)
<p>まとめ</p>	<p>1から生徒が企画立案をし、発災した際の状況になるべく近い防災訓練を実施することができた。座間高生がどのような状況でも瞬時に情報を把握し、自らの安全を確保する(自助)能力を高めることができた。集合の際も誰も喋らず、防災を自分事として真剣に捉えているように感じた。また、午後の部ではARゴーグルを使って災害の疑似体験をするなど、1日を通して「リアル」な防災を追求することができた。</p> <p>今回は防災委員が主体となって企画立案したが、防災委員のみならず座間高生1人1人が防災や災害について真剣に考え、それを実行に移せるような取り組みが持続可能的に出来ると他校や地域にいい影響を及ぼせるのではないかと感じた。</p>

小田原東高等学校 (生徒主体 ・ 地域連携)

名 称	A R機材を活用した地域と連携した実践的防災訓練
日 時	令和6年11月11日(月) 1 津波避難訓練および講義 13時30分～15時20分(5、6時間目) 2 A R機材を活用した訓練および防災講演 13時30分～15時20分(5、6時間目)
実施場所	1 津波避難訓練 校舎 2 A R機材を活用した訓練 ピロティ、柔剣道場
学習のねらい	1 津波避難訓練 想定される大地震とそれに伴う津波に備え、災害時取るべき行動を確認し地域と連携した避難訓練を行い、防災意識の向上を図る。また、自助・共助・公助の意識を醸成する。 2 A R機材を活用した訓練 見慣れた景色や目の前の景色に災害の様子を重ね合わせ、誰でも危機感を感じやすく、より「じぶんのこと」として捉え、防災意識や有事での適切な行動力向上を図る。
主 催	学校主催
参加人数	参加生徒 505名 ・ 教職員 53名
事前準備	<p>1 津波避難訓練</p> <p>HRにて出欠確認、訓練概要、訓練の意義、下記の※津波警報発令時の避難原則を説明する。 *1年生総合ビジネス科は柔剣道場に移動しA R防災学習と防災講演を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>担任説明内容 ※津波警報発令時の避難原則(訓練時の避難経路は右頁参照)</p> <p>*1年総合ビジネス科は、A R体験前に担任から説明</p> <p>①北館及び西館にいた場合 → 西館4階へ避難</p> <p>②ICT棟、体育館、東館にいた場合 → 南館4階へ避難</p> <p>③情報演習棟及び南館1階・2階にいた場合 → 南館4階へ避難</p> </div> <p>2 A R機材を活用した防災訓練</p> <p>(1) A R機材を活用した防災訓練の授業 対象 総合ビジネス科生徒(68名) 物品 Ipad(A R浸水体験用タブレット) H M D(A R煙体験用ヘッドマウントディスプレイ)</p> <p>(2) 教職員・地域住民対象のA R機材を活用した防災訓練</p>

<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】 ○実際の大きな災害を経験したことがないので、もし災害がおきた時に考えている行動ができるのか、パニックになってもできる限り最善の行動をできるようにしたい。 ○津波が来た時には私たちにはもう何もできないので「おかしも」を守り避難したい。 ○もう一度家族で防災について話し合おうと思った。</p> <p>【教職員】 ○避難訓練だけでなく、講話なども充実したものとなった。 ○生徒は危機感を持って行動ができていた。</p> <p>【地域住民】 ○定期的に訓練を行うことで、避難ルートの確認になり学校との連携をはかっていきたい。</p>
<p>工夫した 点</p>	<p>○防災動画の視聴、防災講話の充実など、例年になかった新しい取り組みを行った。 ○想定される大地震とそれに伴う津波に備え、災害時に取るべき行動を確認し地域と連携した避難訓練を行った。 ○AR技術等を活用し、学校生活で見慣れた景色や目の前の景色に災害の様子を重ね合わせた。 ○県教育委員会と連携をはかりながら、最新の技術を取り入れた訓練が実現できた。</p>
<p>成果</p>	<p>○防災動画の視聴や防災講話によって、南海トラフ地震に関する実際的な知識を身に着け、命を守るための防災意識を向上させた。 ○AR技術の活用により、誰でも危機感を感じやすく、より「じぶんのこと」として捉え、防災意識や有事での適切な人命を守る行動力の向上を図った。</p>
<p>課題</p>	<p>○津波想定避難訓練では生徒は1つのフロアに3学年が避難するため、長時間滞在となると、精神的に苦痛が伴う可能性がある。 ○避難後に安全な場所に分散再避難するなどについても検討の余地がある。</p>
<p>まとめ</p>	<p>○津波を想定した垂直避難訓練を実施した。地域の方、支援センター（福祉作業所）の方も迅速に避難行動を取っており、全体としてスムーズに実施することができた。また防災動画の視聴や防災講話によって、南海トラフ地震に関する最新の情報を知り、自分の命を守るための防災意識を向上させた。 ○AR技術活用により、学校生活で見慣れた景色や目の前の景色に災害の様子を重ね合わせ、災害をより「じぶんのこと」として捉え、防災意識や有事での適切な人命を守る行動力を向上させることができた。</p>

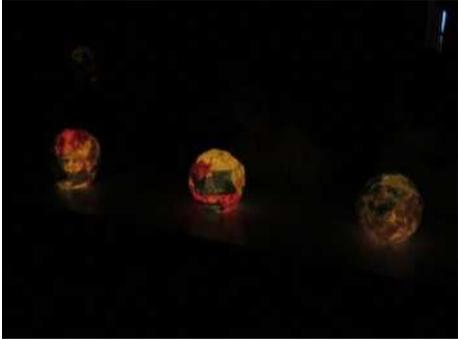
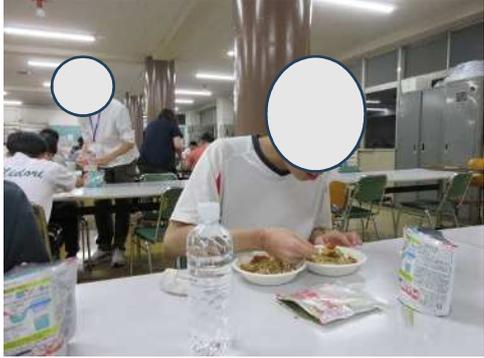
あおば支援学校 (生徒主体)

名 称	宿泊訓練
日 時	令和6年11月21日(木) 8時55分～令和6年11月22日(金) 15時5分
実施場所	体験場所等：本校体育館、会議室、バスロータリー、自立活動室、備蓄倉庫
学習のねらい	①家庭を離れ、校内での宿泊体験を行い、衣食住の自立心を養う ②防災学習の一環として、避難した際の避難所体験、非常食体験を行う。 ③避難所生活を体験し、集団活動の中での協調性を養う。
主 催	学校主催 (大地震等の災害時を想定)
参加人数	参加生徒 25 名 ・ 教員 15 名 養護教諭 1 名
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災宿泊学習に関する事前学習 ・ 消防署への講義依頼 ・ 地域防災拠点 (横浜市立みたけ台中学校) の見学依頼、下見 ・ 喫食訓練用食物、水分の購入。家庭の授業で防災食の事前学習 ・ 寝袋レンタル、ドライシャンプーなど必要物品 の購入 等
実施内容	<p> <防災学習>  【校内の防災倉庫を確認しよう】 <組立トイレ・段ボールベッド体験> <組立トイレ・段ボールベッド体験>  【段ボールベッド組み立て体験】 <防災食・喫食体験> </p> <p>  【組立トイレを体験しよう】  【防災食を食べよう】 </p>

<p>実施内容</p>	<p><消防署と連携した訓練></p>  <p>【水消火器訓練】</p>	<p><消防署と連携した訓練></p>  <p>【煙体験】</p>
<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防災レクが楽しかった。 ○避難所体験が楽しかった ○防災食を食べられてよかった。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防災について生徒たちにとって充実した活動ができた。 ○災害時想定で校内に宿泊できる貴重な体験を行えた。 	
<p>工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○災害について映像をまじえながら体験的に取り組んだ。 ○校内の防災ツアーで、備蓄施設や発電装置などを見学した。校内には災害に備えた様々なものが準備されていることを知ることができた。 ○防災レクでバケツリレーを行い、消火活動の疑似体験を行うことができた。 	
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○避難所生活について『協力すること』を目標に活動を行った。防災レクをはじめ、避難所設営など様々な活動をみんな助け合って活動することができた。 ○生徒一人ひとりが学校に置いている防災バックの中身を確認した。防災食を確認することで必要なものが入っているか足りないものはないか、自分自身で確認することができた。また、確認した内容については今後、家庭への促しの機会にしていく予定。 	
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○例年と違い気温が高めだったこともあり、寝具に関して保護者からの問い合わせが多かった。「健康管理」の観点から、保護者との連絡を密にしながら計画を進めていく必要がある。 	
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○校内に宿泊したことのない生徒が多数いる中で、貴重な体験をすることができたのではないかと考える。特に、寝袋で寝たり、ドライシャンプー・清拭など災害時に想定される体験をしたりすることで、生徒たちにとっても映像や話しを聞くだけでなく、自分自身が体験し、今後に生かせる活動になったのではないかと考える。 	

みどり支援学校 (生徒主体)

名 称	宿泊訓練
日 時	令和6年9月27日(金) 9時00分～ 令和6年9月28日(土) 10時00分
実施場所	体験場所等：みどり支援学校高等部1年生教室、高等部3年生教室、音楽室、視聴覚室、食堂
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害が起きた場合に、学校に泊まることを知る。 ・「自分の身は自分で守る」意識、防災意識を高める。 ・自分の持ち物の整理などの身辺処理の活動を通して、自分のことを自分で行う生活態度を身につける。 ・保護者へ生徒引き渡し体制を確認する等、職員の防災に対する実践力を高める。
主 催	学校主催(大地震等の災害時を想定)
参加人数	参加生徒 22名 ・ 教員 12名
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者説明会資料作成 ・事前・事後学習授業準備、しおり作成 ・県への届 ・服薬チェック表作成 ・宿泊当日の学習準備(ビデオ視聴、避難所設営体験、防災校内探索) ・レンタル布団 ・食事準備(夕食、朝食の発注) ・細案作成
実施内容	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p><防災学習1></p>  <p>【ビデオ学習 地震発生時の身の守り方】</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p><防災学習2></p>  <p>【避難所設営体験】</p> </div> </div>

<p>実施内容</p>	<p><防災学習3></p>  <p>【防災学校探検】</p> <p><夜のつどい></p>  <p>【ランプシェード体験・暗闇体験】</p>	<p><喫食訓練></p>  <p>【夕食（レトルトカレー・アルファ米ビスコ・水）】</p> <p><就寝準備></p>  <p>【布団運び・布団ひき】</p>
<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダンボールベット作りがんばった。 ・暗闇体験が楽しかった。 ・ランプシェードがきれいだった。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールがきつきつで余裕がなかった。 ・避難所設営体験や、校内探索は良い経験になったと思う。 ・男女の部屋の配置が高等部1年、高等部3年の教室と離れエリアでよかった。 	
<p>工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所設営体験や校内探索など、体験的な学習を取り入れた。 ・生徒が見通しを持てるように宿泊学習のスケジュールを歌詞にした歌を作った。 ・美術で作ったランプシェードを防災学習で楽しむことができた。教科横断的な学びに繋がった。 	

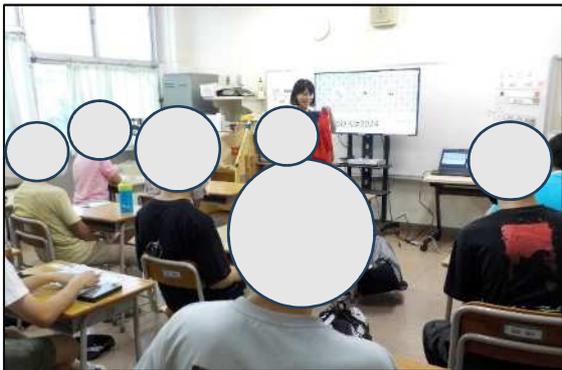
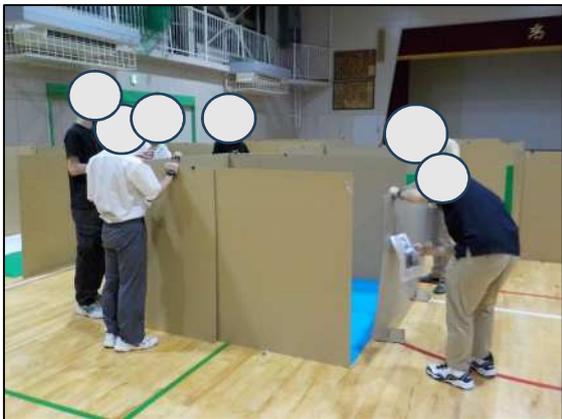
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や災害が起きた際に自分を守るための方法を学習したことで、防災意識の向上に繋がったのではないか。 ・入浴できなかつたり、非常食しか食べられなかつたり、実際に地震が起きた時を想像することに繋がったのではないか。 ・2年生、3年生の宿泊体験に向けて、就寝時などの実態把握をすることができた。 ・引き渡し訓練を通して、保護者に引き渡す流れを把握することができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の時間を沢山詰め込んでしまったので、もう少し余裕のあるスケジュールにするべきであった。 ・金曜日は他学部や他学年が 15 : 00 まで活動をしているので、使用教室が限られてしまった。
まとめ	<p>宿泊学習を通して、地震や災害が起きた際に自分を守るための方法を学習したり、避難所設営体験でダンボールベットを作成し、横になってみたり、校内探索で非常口の位置を確認したりと、体験的な学習をすることで生徒や教員の防災意識の向上に繋がったと考える。またランプシェード体験や、暗闇体験では、他クラスの生徒と一緒に活動することで、コミュニケーションをとる機会となった。しかし、普段の金曜日の授業後にさらに防災の学習をしたり、備蓄食料を食べたり、入浴できなかつたり、教室で寝たりと、過酷さを感じる場面も多かった。生徒や教員の健康や生活リズムを考えると、防災の学習は普段の授業の場面で取り入れるなど考えていくべきであると感じた。</p>

相模原中央支援学校 (生徒主体)

名 称	防災宿泊訓練	
日 時	令和6年12月13日（金）13時30分～令和6年12月14日（土）11時00分	
実施場所	体験場所等：体育館、自立活動室、地域生活支援室、流通室、農園芸室、環境整備室等	
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災、安全に対する意識を育成する。 ・ 災害時を想定して、学校に宿泊する体験をする。 	
主 催	学校主催（大地震等の災害時を想定）	
参加人数	参加生徒 23名 ・ 教員 11名	
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非常食、レンタル寝具等の発注 ・ 学年教員と安全対策チーム員での訓練内容等の打ち合わせ ・ 防災リュックの準備、防災教育（災害発生時の対応等） 	
実施内容	<p><避難所開設></p>  <p>【体育館に避難】</p>	<p><避難所開設></p>  <p>【ダンボールベッドの組み立て】</p>
	<p><防災学習></p>  <p>【災害用トイレの活用方法】</p>	<p><物資配給訓練></p>  <p>【防災用食品を食べる】</p>

<p>実施内容</p>	<p style="text-align: center;"> ＜非常食喫食訓練＞ ＜救急処置法講習＞ </p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;"> 【防災用食品を食べる】 【バンダナを使った止血法】 </p>
<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ダンボールベッドを組み立てる時に、全員で協力して組み立てることができて良かったです。 ○防災リュックがあるととても便利だと思いました。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年の教員だけでなく、安全対策チーム員と連携して訓練を進めることができて良かった。 ○楽しみながら大切な経験ができたので良かった。
<p>工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○実際の地震を想定して、生徒への告知なしに活動の途中に余震が発生するように設定し、緊急放送を2回実施した。 ○非常食喫食体験や災害時トイレなど、実際に災害が起きた際に必要になってくることを多く取り入れて経験することができた。
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○事前学習と宿泊体験を通して、防災に関する知識、関心を高めることができた。 ○大きな災害が起きた時に学校に宿泊し、その時にどのような物を食し、どのような生活を強いられる可能性があるということを、生徒がイメージできる機会になった。 ○引き渡し訓練では保護者の協力を得ることができた。 ○夜間の生徒の様子を見ることができ、宿泊時の配慮事項等を把握できた。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒や教員の体調管理がしやすいように実施時期を検討する必要がある。(12月実施は寒い) ○いざという時に使えないということにならないよう、乾電池等の物品の状態確認をこまめに行う。
<p>まとめ</p>	<p>・事前学習と避難所生活の体験を通して、防災に対する意識を高めることができた。今回は知的障害教育部門の生徒を対象に行ったが、本校は4部門あり、肢体不自由教育部門の児童生徒も在籍している。幼児児童生徒によって実態は様々であり、より多くの可能性を今以上に考え、時には対象者を変える等実際の災害時を想定した訓練を他学部や他部門でも取り入れていけると良いと感じる。今後も日頃から防災や自然災害への関心を持たせられるようにするとともに、授業や体験学習の機会を設定することで、生徒・教員がより防災意識を高められるようにしていきたい。</p>

高津支援学校 (生徒主体)

名 称	防災宿泊体験（防災のひろば 2024）	
日 時	令和6年8月22日（木）17時00分 ～ 令和6年8月23日（金）9時00分	
実施場所	体験場所等：高津支援学校内 体育館 縫製室 集会室 プール棟	
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時を想定した学校での宿泊体験を通し、防災意識を高める。 ・災害時対応訓練を通し、役割を意識した行動がとれるようになる。 ・様々な災害時対応体験を通し、自分の命を守る力を身に着ける。 	
主 催	学校主催（大地震等の災害時を想定）	
参加人数	参加生徒 11名 ・ 教員 6名	
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所設営用及び災害時対応訓練用物品の準備、非常食等の発注。 ・防災学習内容、訓練、体験内容の検討、準備。 ・参加生徒、保護者への連絡、調整。 	
実施内容	<p><防災学習></p>  <p>【地震について知ろう】</p>	<p><物資運搬></p>  <p>【段ボール・非常食等の運搬】</p>
	<p><避難所開設></p>  <p>【段ボールを組み立て居住空間の設営】</p>	<p><非常食調理・喫食体験></p>  <p>【非常食（豚汁）の調理・喫食】</p>

<p>実施内容</p>	<p>＜暗闇歩行体験＞</p>  <p>＜避難所ボランティア体験＞</p>  <p>【懐中電灯の明りで障害物を避けて歩行】 【朝食の準備・呼びかけ・配付】</p>
<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○避難場所を調べる、水や食料を備える等、事前の準備が大切だと思った。 ○本当に地震が起きた時も、訓練を思い出して行動しようと思った。 ○訓練は友達と一緒にだけけど、実際は知らない人と過ごすと思うと不安です。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○経験したことのない体験学習が多く、丁寧に取り組む様子が見られた。生徒の主体性を大切にすると、活動時間を長めに設定しておくことが必要。 ○経験することでイメージを共有できることが大切、生徒の様子から訓練の成果が得られたと思う。
<p>工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○防災学習にて、近年の地震災害等による避難所生活の様子を動画で見ることによって、イメージをもち、緊張感を保ち取り組めるようにした。 ○教員、生徒共に避難所スタッフとして行動する際はビブスを着用。役割や立場を明確にすることで、自ら考え主体的に動けることを目指した。 ○体験学習は写真付きの手順書を確認しながら取り組むようにし、災害時もお知らせや説明書等の手立てを頼りに行動できる力を高められるようにした。
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○体育館での宿泊という体験により不便さや不安な気持ちを体感し、正しく恐れて備えることや、周囲と協力することの大切さを学ぶ機会となった。 ○様々な立場を想定した体験的な学習に取り組んだことで、役割を意識し、積極的に行動する姿が見られた。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○実施対象学部、学年や、系統的な学びについて検討が必要である。 ○自立度を問わず、生徒皆が主体的に参加できる体験活動の工夫が必要である。 ○地域との連携も取り入れた訓練の実施を検討していきたい。
<p>まとめ</p>	<p>今年度は分教室在籍生徒から、防災宿泊体験への参加希望者を募り実施したため、自主的、主体的に行動できる生徒が多く、様々な体験学習で、ねらいにそった生徒の反応や学習成果を得ることができた。特に避難所内のルール決めや食事場所の設営等に生徒主体で取り組めたことで、周囲への配慮、他者との協力の大切さを実感できた生徒が多かった。</p> <p>次年度は対象学部、学年を変えて実施予定のため、実態に合った学習内容の検討を深め、生徒誰もが実践に繋げていける力を高められるよう工夫していく。</p>

岩戸支援学校 (生徒主体)

名 称	防災宿泊訓練			
日 時	令和6年10月4日(金)13時00分～令和6年10月5日(土)11時40分			
実施場所	体験場所等：本校 体育館等			
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・非常事態を想定し、防災に関する体験や実践を通して自らの命を守る力を育成する ・災害時を想定して、学校に泊まる経験をする ・引き取り訓練を通して、安全かつ確実に保護者や引き受け者に引き渡せるようにする 			
主 催	学校主催（大地震等の災害時を想定）			
参加人数	参加生徒 知的障害教育部門44名 ・ 教員19名			
事前準備	防災にかかわる事前学習（DIG訓練、防災マップ、清拭、防災グッズ等）			
実施内容	<p><防災学習></p>  <p>【災害シミュレーション】</p>	<p><DIG訓練></p>  <p>【防災マップの発表】</p>		
	<p><水消火器訓練></p>  <p>【消防署と連携した訓練】</p>	<p><避難所開設></p>  <p>【プライベートスペースの避難所開設】</p>		

<p>実施内容</p>	<p style="text-align: center;"> ＜防災食を食べる＞ ＜夜間校内探索＞ </p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【夕食に防災食を食べる】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【非常口と消火器を探す】</p> </div> </div>
<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○津波の心配はないが、川の氾濫、土砂崩れが起きたら相当な被害があるかもしれない。 ○自分の地域を調べたら山に囲まれていたり、川が通っていたりして、とても危ないことがわかりました。 ○一人ひとりのスペースがないと、ストレスが溜まるため、宿泊の際にプライベートスペースが必要だと感じた。 ○震度7は立てないほどの揺れだった。外で見るより、中で実際に体験した方が揺れました。地震は本当に怖いです。 ○地震が来たら風呂に入れないので、菌が溜まり臭くなるし、体が汚いと感染症になる可能性がある。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実態にもよるが、クラスごと生徒たちでお湯を沸かして自分たちで作る体験ができて良かった。 ○防災グッズの授業で制作した防災用枕を、実際に使用して寝ている生徒が多くいたのが印象的であった。 ○消防の方を呼んで、実際に起震車や水消火器の体験ができたのが、目で見るだけでなく、体で体験できて良い経験になったと感じる。
<p>工夫した 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○全員が体育館を拠点として活動したことで、移動が少なく、時間に余裕を持って活動できた。 ○起震車・水消火器体験では、消防局の方を講師として招き、実際に生徒たちに直接説明等をしていただいた。 ○夕食、朝食の食事内容を防災食とし、避難場所で想定される食事を体験した。
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○2日目に生徒が取り組んだ振り返りプリントでは、生徒の多くが、実際に経験することの必要性を実感していた。 ○学校周辺や、自分の住む地域の危険箇所や避難場所の確認ができた。 ○消防局と連携し、起震車、水消火器の体験をすることができた。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○起震車体験は、実態や恐怖感から、体験する生徒が限定されてしまう。振り返りの学習は行うが、全員に体験できる方法があればより良い。 ○津波、土砂崩れ等の体験をAR等で体験できるとより良い。
<p>まとめ</p>	<p>非常事態を想定し、防災に関する体験や実践を通して、自らの命を守る力を育成すること、災害時を想定して、学校に泊まる経験をする、引き取り訓練を通して、安全かつ確実に保護者や引き受け者に引き渡せるようにすることの3点を目的として宿泊学習を行った。体験的な訓練や活動を多く実施したことで、振り返りの学習では多くの生徒のワークシートから、実体験の必要性や、本当に起きた場合の過酷さを実感できたという意見や感想がみられた。継続的に防災教育を実施していきたい。</p>

有馬高等学校

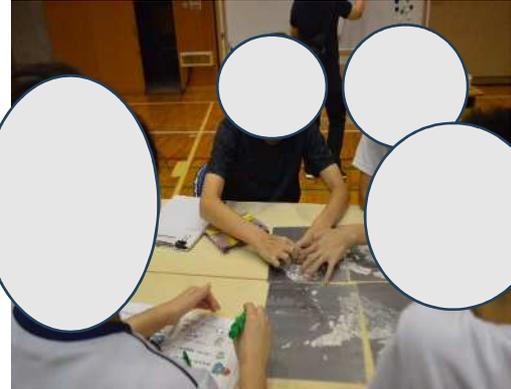
(生徒主体 ・ 地域連携)

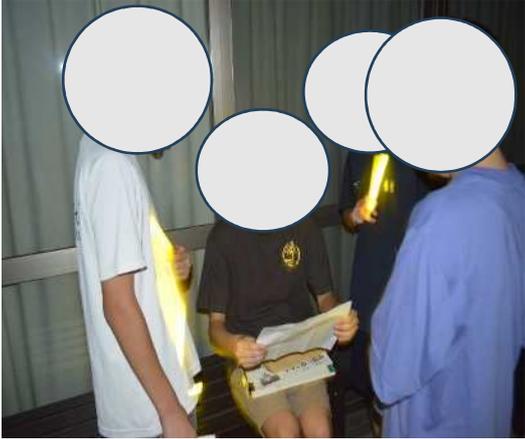
名 称	有馬防災キャンプ
日 時	令和6年9月13日(金)16時25分～令和6年9月14日(土)9時30分
実施場所	体験場所等：会議室、体育館
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災を自分事として捉える ・ 年齢や立場を越えてつながる
主 催	学校主催
参加人数	参加生徒13名 ・ 教員5名
実施内容	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;"> <p><導入></p>  <p>【防災コンセンサスゲーム】</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p><震災講話></p>  <p>【東日本大震災被災者から学ぶ】 ～高校生の君たちにできること～</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p><喫食訓練></p>  <p>【非常食を体験しよう】</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p><災害時救出訓練></p>  <p>【夜間の学校を回る】</p> </div> </div>

<p>実施内容</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p><避難所での生活体験></p>  <p>【避難所での遊びを実践しよう】</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p><振り返り></p>  <p>【気づきを共有】</p> </div> </div>
<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知識は力になるし、知っているだけで実際に災害になった時に考えるスタート地点が違うのでこの講習を受けて良かった。 ○授業で学んだりすること以上にリアルな物を聞いたり感じたりすることができてとても貴重な体験をできたと感じました。 ○今までも学校で防災の話を知っていたけど今回の講師の話は今まで聞いた話の中でも詳しく当時の話を聞いて、話を聞きながらも自分がこういう状況になったらと考えると悲しくなるし怖くなった。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○講演内容が高校生に寄り添った実用的な内容で素晴らしかったです。特に始まるときの生徒の緊張したような顔から、終わりには防災に向き合った真剣な顔つきに変わったことに大変驚きました。 ○終始生徒たちがしっかりと話を聞いたり、考えたりしていたのでとても良かったと思います！楽しみながらも学びを定着させているのが良いなと思いました。 ○よくある防災理論の羅列ではなく、高校生にむけた実践的で実用的な内容の素晴らしい防災講演に、多彩なキャリアをもとにした生徒の進路指導、親しみやすい人柄で常に生徒に親切に対話される素晴らしい講師でした。
<p>工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○冒頭のコンセンサスゲームから講師の講話、避難所体験のプログラムなど全てのプログラムに一貫性をもたせたこと。 ○当日初めて出会った参加者同士が学年を越えて交流を深められるようなプログラムを多く取り入れたこと。
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○東日本大震災を経験した被災者からより現実味のある話を聞くことで高校生年代の自分たちに何ができるのか考えるきっかけになった。 ○普段、かかわりの少ない他学級、他学年との交流により、有事の際に積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢が身に付いた。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○予算の関係上、大人数を対象に企画が実施できないこと。 ○安全管理上、男女一緒に企画を実施することができないこと。

まとめ	<p>今回の防災キャンプでは、高校生が防災を「自分ごと」として捉え、年齢や立場を超えてつながりを深めることを目的とした。コンセンサスゲームでは仮説の立案、東日本大震災の被災者からの講話を中心に、実際の体験談から自らの身に起きた場合の対応、そして実践という流れを重視したプログラム構成が、参加者の防災意識向上に効果的であった。また、話を聞くだけでなく、参加者自身が考え、行動する時間を多く取り入れたことで、交流が深まり、学びがより実践的なものになった。</p> <p>しかし、予算の制約により、大人数を対象に実施できなかったことは課題として残る。今後、より多くの高校生が参加できるように検討する必要がある。</p>
-----	--

津久井支援学校 (生徒主体)

名 称	高等部 1 年防災宿泊学習
日 時	令和 6 年 9 月 13 日 (金) 8 時 30 分 ~ 令和 6 年 9 月 14 日 (土) 10 時 15 分
実施場所	体験場所等 : 体育館、調理室、会議室、更衣室
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の対応を想定した地域や保護者との連携を行う。 ・地震によっておこる危険と安全な避難の仕方について理解し、適切な行動がとれるようになる。 ・相手の立場になって助け合い、自分の役割を自覚し、協力して行動する態度を養う。
主 催	学校主催 (大地震等の災害時を想定)
参加人数	参加生徒 13 名 ・ 教員 17 名
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災宿泊学習の実施計画および避難訓練の実施計画案 ・ 防災宿泊学習に関する事前学習 ・ 非常食、レンタル毛布等の防災物品の発注 ・ 地域住民への案内チラシ作成と配付 ・ 防災倉庫にある防災用品の確認 ・ 参加教員との事前打ち合わせ
実施内容	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;"> <p>< 防災学習 ></p>  <p>【簡易トイレの使い方】</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>< 避難所設営 ></p>  <p>【地域の方と避難所設営】</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>< 非常食調理 ></p>  <p>【非常食調理の様子】</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p>< 災害図上訓練 (DIG) ></p>  <p>【DIGの様子】</p> </div> </div>

<p>実施内容</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p><夜間校内歩行></p>  <p>【夜間校内歩行体験の様子】</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p><引き取り引き渡し訓練></p>  <p>【引き取り引き渡し訓練の様子】</p> </div> </div>
<p>参加者の 主な声</p>	<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○避難所設営のテント立てについて、最初は分からなかったが徐々にできるようになり、良い体験ができた。 ○災害時の備蓄食料は、お腹いっぱい食べられないことを知った。 ○万が一に備えて防災宿泊の経験ができて良かった。 <p>【教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○避難所設営を実際に確認することができた。 ○生徒たちの避難所での過ごし方の一端を見ることができた。
<p>工夫した 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○活動ごとに担当教員を決め、活動内容の充実を図った。 ○生徒が目的意識を持って宿泊に取り組めるよう、計画的に事前学習を行った。 ○地域の方と連携して設営ができるようにグループ分けをして、テント設営を行った。
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒や保護者の防災意識が高まった。 ○地域との連携を図ることができた。 ○教職員が校内の防災用品や避難所設営の確認をすることができた。
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の方との連携を今後も継続して行うこと。 ○宿泊する教員の人数の見直しを行うこと。今年は適当な人数だった。
<p>まとめ</p>	<p>これまでの引継ぎを受け、分掌と学年での業務分担を明確にして宿泊学習を行うことができた。</p> <p>地域の方とも協力して避難所設営を行うことができ、宿泊学習を通して、生徒の防災への関心や興味が高まった。</p> <p>学年の特性を考慮しながら今後も宿泊学習ができるとうい。</p>